



楽々亭通信

第 42 号
令和6年4月1日号

発行：NPO法人没イチの会・京都

3月の楽々亭を 開催いたしました

本願寺派布教使

安堂芳雅

こんにちは、安堂です。

母の納骨に際し、少し思うところがありましたので、今月は納骨やお墓について書きます。

人類が残した古代の建造物で、最も大きなものは何だと思われませんか。

実は、ピラミッドや古墳といったお墓なのです。

私たち人間は、遺体・遺骨を納めるといふことを昔から大切な儀式として執り行ってきたことがわかります。



■もともと仏教は遺体・遺骨にはこだわらない

キリスト教で土葬が基本なのは、最後の審判の時に魂が戻る肉体が必要だからだそうです。

しかし仏教では、その魂自体が生まれ変わる（輪廻）と考えますから、遺体や遺骨に執着はしません。

『大般涅槃經』によると、お釈迦さまは弟子のアナンから、「修行が完成した者の遺体はどのようなにすればいいでしょうか。」とたずねられたとき、「おまえたちは遺体

や遺骨の供養に拘わつてはならない。それよりも正しい目的のために努力しなさい。」と答えておられます。

遺体（遺骨）に執着することによって、「解脱」という本来の目的を見失うことを

危惧されたお釈迦さまは、「葬儀の仕方や遺体に拘わらず、迷いからの解放（解脱）にむかって修行せよ。」と仰ったのです。

これは、今私は何をすべきかを考えさせられたお言葉でした。

また、浄土真宗の宗祖、親鸞聖人は「私が死んだらその遺体は加茂川に流して魚の餌にしなさい。」といひ遺されています。

（『改邪鈔』）

「川に流してくれさえすればそれでよい。」とは、なんと簡単なことでしょうか。

これは、今生で阿弥陀さまのすくいに遇うことの大切さと、遇えたものの安心を教えていただいたお言葉でした。

確かに、仏教本来の目的からいうと、遺体・遺骨に拘わらない

のが正論です。がしかし、遺された体や骨に、生前親しかった人、愛した人、尊敬していた人の面影を見て、追慕の念を向けるのも私たちの感情として、止めようのない事実なのです。

実際、八十歳でお釈迦さまが涅槃に入られると、その舍利（お

釈迦さまの遺骨）の取り合いになっていきます。幸いドローナという賢者の言葉によって仏舍利は公平に分配されたので、大きな争いにはなりません。そして後に、アショーカ王が仏舍利を更に分配し、八万四千基の仏塔がインド各地に建てられました。

親鸞聖人もご遺言に反して、亡くなられた後のご遺体は火葬され、ご遺骨は京都の大谷の地に埋葬されています。これが本願寺のはじまりです。

■仏さまとのお縁を
むすぶ「お墓参り」

西本願寺のご門徒さまの納骨場所を大谷本廟といい、毎日、多くの方が納骨やお墓参りにこられてい

ます。

私はいつも、お参りの方々の、遺骨を納め、お香をたき、お華を捧げて合掌礼拝されるお姿に、先立ってお浄土にかえられたお方の仏さまとしてのはたらきを感じます。とても温かな世界を感じています。

仏事としてのお墓参りは、お骨参りでも墓石参りでもありません。

大切な方の遺骨をご縁としながらも、それを超えて私にかけられた阿弥陀さまの願いに出遇ってゆくことが、仏教徒のお墓参りです。



五木寛之さんの「仏教へのたび」を読んで — 籠谷 弘 —

私は高校時代仏教に触れました。住んでいたのが京都という事もあり、自然に仏教青年会という会に入り、勉強と言うほどではありませんが、色々多感な年頃でもあり、人生とは、人間とは、生きるとは、死ぬということ、など疑問ばかりの年代でしたので、仏教でそんな悩みが解決できればとの想いもあったのでしょうか、真剣に念仏をしていました。座禅もしてみました。キリスト教にも興味を持ち、バイブルも読みました。創価学会の会合にも参加しました。真光さんの会合にも行きました。答えがほしかったからです。

慧能禅師がなぜ、当時の人々から支持されたのか。五木さんによると、禅師が他の禅師と違って日々の中で座り、悟りが開けると初めて解いた人だからだそうです。常住坐臥ですね。

その後法然上人が「易行」という観念で、「易行念仏」と言う思

想にたどり着いて、ナムアミダブツ、と言う念仏を唱えれば誰でも往生することが出来ると説いたのですね。

その弟子の親鸞聖人のお歌に
“善人なおもて往生する、いわんや悪人をや”
とおっしゃっています、意味深いお歌ですね、

人生は常住坐臥がもつとも大切と思っています。ですから私は、色々な宗派の教義には賛同しても、教団には両手を挙げて賛同したことはありません。私たちの仏教青年会も色々なお寺をお借りして、勉強会、行、を行ってきました、なぜでしょうか。教義は間違っていないのにその人たちが集まって教団を作ると、教え主様と違った方向に行ってしまうのを見ているからです。

どこの教団でもそうです。また、どうして異教徒だからと殺しあうのでしょうか。人間は自分に都合の良いほうに初期の教えを変えてしまいか、それを口実に人を殺すのですね。そんな人を殺す

等の教えはどの宗教でもありません。現代の人間が都合よく利用しているだけです。

人生を生きていく手段は、お金がある程度稼ぐことです。人生の目的は、悟りを開くことです。

この二つを同時に毎日考え、実行していかねばなりませんから、生きるとは大変ですね。

皆さん、死ぬまで、生きましよう、生き活きと生きましよう。
(自分に言い聞かせながら、そう思っています。)

楽々亭 4月の予定
4月23日(火)
西京区役所洛西支所第三会議室
午後1時30分～3時30分

楽々亭通信
発行元：NPO法人 没イチの会・京都
住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406
TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328
MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。